

首都大学東京 大学教育センター

年報（全学共通教育部門）

平成26年度

目次

大学教育センターに専属する教員の平成 26 年度における活動.....	2
担当授業	3
各教員の教育研究実績の概要	4
研究実績	6

平成 26 年度『首都大学東京大学教育センター年報（全学共通教育部門）』には、平成 27 年 4 月 1 日に大学教育センターに在籍しており、他の学部・系ないし研究科等の兼務がなく、大学教育センターに専属する大森 不二雄 教授、高野 一良 教授、永井 正洋 教授、林 祐司 准教授、柚原 一郎 准教授（職位、五十音順）の 5 名の教員の平成 26 年度における教育・研究の状況について記載した。

なお、他部局と兼担している教員については各教員が所属する学部・系ないし研究科等で発刊している年報を参照されたい。

—平成 28 年 2 月 公開—

大学教育センターに専属する教員の平成 26 年度における活動

担当授業

大森不二雄	教授・・・基礎ゼミナール 「グローバル人材」をめざす学び
高野 一良	教授・・・実践英語 都市教養学部人文・社会系専門教育科目
永井 正洋	教授・・・情報基礎A 情報リテラシー実践Ⅰ 情報リテラシー実践ⅠA 情報リテラシー実践ⅡA 情報リテラシー実践ⅡB 情報科教育法Ⅱ
林 祐司	准教授・・・基礎ゼミナール キャリア形成 キャリア形成演習 現場体験型インターンシップ
柚原 一郎	准教授・・・英語Ⅰ 英語Ⅱ 実践英語Ⅰa 実践英語Ⅰb 実践英語Ⅱa 実践英語Ⅱb

各教員の教育研究実績の概要

大森不二雄 教授

高等教育、教育政策、教育社会学

グローバル化する知識社会に対応できる大学教育・大学院教育の在り方を探究する視点から、教育プログラム（学位課程）の開発、教育の組織的質保証と戦略的経営の統合的枠組、教育政策に関する社会学的分析等に関する研究を進めた。

「今後の大学教育改革のあり方に関する研究」を行い、著作や学会発表などの業績を産み出すとともに、直接・間接に教育の改善・改革に活かす実践的含意も得られた。

高野 一良 教授

英米文学

平成 25 年に出版した『アメリカン・フロンティアの原風景——西部劇・先住民・奴隷制・科学・宗教』（単著、風濤社）で取り上げたアメリカン・インディアンの伝記を翻訳し、出版する準備を進めた。

永井 正洋 教授

情報教育

概ね学生は意欲的に授業に取り組み、教員の説明や対応を評価すると共に、情報リテラシーが身についたと認識し、満足していたことが分かった。数年に渡りこの傾向は見られ、情報科目のカリキュラムは、比較的、継続かつ安定して学習者に評価・支持されていると考えられる。反面、課題としては、授業外での学習時間の不足が示された。これに関しては、改善に向けて、本年度より反転授業の取り組みを開始しており、国内学会で発表した。

本年度から情報リテラシー実践 I では、反転授業を新しい FD の取り組みとして試行的に実践している。本科目は同じ部局の初年次学生を複数のクラスに分けて指導する形態を取っているが、1 クラスを実験群として反転授業を、別の 1 クラスを統制群として従前授業をそれぞれ実施し比較検証した。知識の習得を小テストによって事前・事後に測定した結果、両群とも事後成績が有意に向上した。更に、実験群は成績中位者の向上が特徴的にみられたが群間に有意な差は認められていない。一方、事後に実施した意識調査からは、授業前の予習が授業内容の理解や課題に取り組むことに役立つほか、授業に積極的に取り組む契機になることが示され、反転授業が受講生に意識改善を生じさせる一助となっていることが確認された。

林 祐司 准教授

キャリア形成に関する研究（とくに新卒採用）

昨年度学会発表を行い、本年度当初に投稿した林 (in press) が年度末になってアクセプトされた (他の研究は説明を割愛)。本研究では、人事マイクロデータとアンケートデータを組み合わせた実証的検討から、構造化面接のもとでの面接者の評価には組織が定めた評価項目に照らした基準関連妥当性があることと、応募者は面接者による評価を推測しうるとともに、面接で高く評価されたと推測する応募者は組織への態度が良好になることを示した。これらを踏まえ、本研究では、構造化面接は優秀な人材を効果的に選別することと、面接で高く評価した人材が組織に参入するよう誘引することを両立する効果的な採用手法であると結論した。

柚原 一郎 准教授

言語学、英語学、英語教育

意味に関する現象を形式に関する現象として議論したため、本来進むべき方向と異なった方向に進んでしまった現代言語学の現状に警鐘を成らし、是正を促すことを目的とする研究を進めた。

研究実績

学会発表

- ・大森不二雄, 2014, 「マクロな目標とミクロな手法を繋ぐFD～高等教育における学習成果と質保証～」明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科FD講演会（於：明治大学）, 2014年10月1日. 【招待講演】
- ・大森不二雄, 2014, 「貿易交渉と高等教育～グローバル化における政治経済の論理～」広島大学高等教育研究開発センター第42回研究員集会（於：広島大学）, 2014年11月21日. 【招待講演】
- ・Hisashi Hatakeyama, Masahiro Nagai, Masao Murota, "Development of Mobile Training Systems for Disaster Evacuation" World Conference on Educational Media and Technology (EdMedia 2014) at the University of Tampere and Tampere University of Applied Sciences, in Tampere, Finland, 2444–2448, June 23-27, 2014.
- ・Noriyuki Matsunami, Masahiro NAGAI, "A Trial and Study on a Flipped Classroom Using Video Learning Materials for Preparation at an Elementary School in Japan" Society for Information Technology and Teacher Education (SITE) 2015 at Las Vegas, Nevada, USA, Accepted as Brief Paper, March 2-6, 2015.
- ・松波紀幸, 永井正洋(共著), “予習動画教材を用いた反転授業の試行とその一考察”, 日本教育工学会全国大会第30回講演論文集 CD-ROM, 295-296, 2014.
- ・藤吉正明, 畠山久, 永井正洋(共著), “大学初年次情報科目における反転授業の試行と評価”, 日本教育工学会全国大会第30回講演論文集 CD-ROM, 297-298, 2014.
- ・小林博典, 永井正洋(共著) “TV会議を活用したサテライト研修のアンケート分析”, 日本教育工学会全国大会第30回講演論文集 CD-ROM, 339-340, 2014.
- ・畠山久, 永井正洋, 室田真男(共著) “モバイル端末を用いた防災マップ作成システムの開発”, 日本教育工学会全国大会第30回講演論文集 CD-ROM, 653-654, 2014.
- ・畠山久, 永井正洋, 藤吉正明, 瀬戸崎典夫, 室田真男(共著) “モバイル端末を用いた野外防災学習の取り組み”, 日本科学教育学会研究会研究報告 29(3), 41-44, 2014.
- ・渡邊美紀, 小嶋静恵, 永井正洋, “大学図書館における情報リテラシー教育の現状について”, 日本評価学会 第15回全国大会発表要旨収録, 189-192. 2014
- ・畠山久, 永井正洋, 藤吉正明, 瀬戸崎典夫, 室田真男(共著), “モバイル端末を用いた野外防災学習の取り組み”, 日本科学教育学会研究会研究報告 29(3), 41-44, 2014."
- ・柚原一郎「認知言語学がこのままではいけないわけ」日本フランス語学会 2013年度シンポジウム（2013年6月1日 国際基督教大学）

論文発表又は著書発行

- ・大森不二雄, 2014, 「教学マネジメントをめぐる日・英の政策動向—『経営』は『質保証』をもたらすか—」日本高等教育学会『高等教育研究』第17集, 9-30頁. 【査読付き】
- ・渡辺雄貴・大森不二雄・永井正洋, 2014, 「学習成果に基づく授業設計の視点から見たシラバスの内容分析」大学基準協会『大学評価研究』第13号, 113-122頁. 【査読付き】
- ・広島大学高等教育研究開発センター(編), 2014, 『大学のガバナンス～その特質を踏まえた組織運営の在り方を考える～』(高等教育研究叢書128), 広島大学高等教育研究開発センター. (頁数: 162頁. 分担執筆: 山本眞一, 大森不二雄, ほか9名.) 本人執筆部分: 大森不二雄「大学ガバナンスと教学マネジメント—首都大学東京の事例—」113-125頁
- ・大森不二雄, 2014, 「部活動指導の民間委託—時間の取られすぎを是正—」(論ステーション)『毎日新聞』2014年11月21日朝刊.
- ・Masahiro NAGAI, Noriyuki MATSUNAMI, “Gifted Education and One Case Solution through E-Learning in Japan” “Cases on Instructional Technology in Gifted and Talented Education” Lesia Lennex, Kimberly Fletcher Nettleton, A volume in the Advances in Early Childhood and K-12 Education (AECKE) Book Series, Information Science Reference, IGI Global, 381-410, September 2014.
- ・林祐司 (2014a) 「労働者の権利に関する大学生の理解が就職活動に与える効果の実証的検討—就職活動の実行・企業応募の基準・進路決定の状況—」『大学評価研究』13, 2014年8月、査読あり。
- ・林祐司 (2014b) 「(書評) 松尾孝一『ホワイトカラー労働市場と学歴』学文社 2012年」『社会政策学会誌』6(1)、2014年9月。
- ・林祐司 (2015a) 「採用内定から組織参入までの期間における新卒採用内定者の予期的社会化に関する縦断分析—組織に関する学習の先行要因とアウトカム—」『経営行動科学』27(3)、2015年2月、査読あり。
- ・林祐司 (2015b) 「ノンエリート大学生の労働者の権利に関する理解—キャリア教育における労働者の権利教育の実施に向けて」居神浩編著『ノンエリートのためのキャリア教育論』法律文化社、2015年3月。
- ・林祐司 (in press) 「新規大卒採用活動における構造化面接のもとでの面接者の評価と応募者の自己評価」『日本労務学会誌』近刊、掲載受理。
- ・Yuhara, I. (2014a). 認知言語学(者)がこのままではいけないわけ『フランス語研究』第48号: 132-133.
- ・Yuhara, I. (2014b). Review: The Modular Architecture of Grammar by Jerrold M. Sadock. *English Linguistics*, 31: 297-31.
- ・Yuhara, I. (2015a). 統語的語形成と語彙主義を矛盾させる原因について『慶応義塾大学言

語文化研究所紀要』第 46 号：327-345.

科学研究費補助金

- ・永井正洋 “平成 26, 27, 28 年度科学研究費補助金, 挑戦的萌芽研究, 課題番号 26560126, 小学校での算数学習における初等教育版 MOOC を活用した反転授業の実践と評価, 研究代表者
- ・永井正洋 “平成 26, 27, 28 年度科学研究費補助金, 基盤研究(B), 課題番号 30200687, 高等教育機関におけるFD・SDを目的としたOR支援型IRシステムの開発, 研究分担者
- ・林 祐司 同上。